

介護福祉学科

1 年生

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
人間の尊厳と自立と福祉		講義	岩切 英隆
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自立した生活を支える必要性について理解し、介護福祉の倫理的課題について対応できるための基礎を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 人間の尊厳の保持と自立に関連して、人間の多面的理解、人間の尊厳、自立・自律、権利擁護・アドボカシー、人権尊重、身体的・精神的・社会的な自立支援などについて理解する。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ○人間の尊厳と自立について理解できる。 ○介護における尊厳の保持・自己決定の考え方について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	人間の尊厳と人権・福祉理念①	人間の尊厳と利用者主体	講義・演習
2	人間の尊厳と人権・福祉理念②	人権思想の潮流とその具現化	講義・演習
3	人間の尊厳と人権・福祉理念③	人権や尊厳に関する日本の諸規定	講義・演習
4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①	エリザベス救貧法、新救貧法	講義・演習
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②	社会福祉援助の出発点	講義・演習
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷③	生存権、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン	講義・演習
7	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷④	QOL、生命倫理	講義・演習
8	人権尊重と権利擁護①	利用者の人権と生活、利用者の権利侵害が起こる状況	講義・演習
9	人権尊重と権利擁護②	権利侵害の背景、権利擁護の視点	講義・演習
10	自立の概念①	自立の概念の多様性	講義・演習
11	自立の概念②	自立とは	講義・演習
12	自立の概念③	介護を必要とする人々の自立と自立支援	講義・演習
13	自立の概念④	自立支援とICF	講義・演習
14	自立の概念⑤	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援の関係性	講義・演習
15	復習とまとめ	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座1 『人間の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：40点、期末試験：30点、出席状況：30点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅱ		講義	稲垣 晴久
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] わが国の社会保障の基本的な考え方・しくみについて理解したうえで、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉える内容とする。また、人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・ 障害者総合支援法の内容について理解できる。 ・ 介護実践に関連する制度・施策について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	障害者保健福祉について①	障害者福祉の現状	講義・演習
2	障害者保健福祉について②	障害者福祉の歴史	講義・演習
3	障害者保健福祉について③	障害者福祉の動向	講義・演習
4	障害者総合支援法①	障害者保健福祉の法律・法的定義	講義・演習
5	障害者総合支援法②	障害者総合支援制度の創設の背景・目的	講義・演習
6	障害者総合支援法③	市町村・都道府県・国の役割	講義・演習
7	障害者総合支援法④	自立支援給付と地域生活支援事業	講義・演習
8	障害者総合支援法⑤	障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き	講義・演習
9	障害者総合支援法⑥	障害者総合支援制度における相談支援事業	講義・演習
10	障害者総合支援法⑦	障害児を支える障害者総合支援制度	講義・演習
11	介護実践に関連する諸制度①	個人の権利を守る制度・施策	講義・演習
12	介護実践に関連する諸制度②	保健医療に関する制度・施策	講義・演習
13	介護実践に関連する諸制度③	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	講義・演習
14	介護実践に関連する諸制度④	地域生活を支援する制度・施策	講義・演習
15	試験対策	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座2 『社会の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：20点、試験：80点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
レクリエーション論		講義	山口 榮三
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 福祉レクの考え方・歩みを学ぶ。 福祉レクの展開状況を学ぶ。 福祉レクの企画手法を身につける。 [授業全体の内容の概要] 福祉レクの支援計画の立案ができるように、福祉レクリエーション (以下「福祉レク」) を支える思想、またそれが発展してきた歩みを振り返り福祉レクの具体的な内容とそれが社会福祉の諸領域でどのように展開されているかを学ぶ。そして、福祉レク援助が何を目指して行われるのか、その全体像を理解し、福祉レク援助者としての支援計画立案手法を学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・福祉レクの考え方・歩みを簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの展開状況を簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの企画ができる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	福祉レク援助の理論①:福祉レクの考え方 人間の生活と遊び・レクリエーション	福祉レクの意義とその活動の理解の受講方法説明 遊びはどう論じられてきたか・発展と広がり	オリエンテーション 講義
2	福祉レク援助の理論②:社会福祉の発展とレク	社会福祉の黎明 余暇善用論から福祉文化運動論への胎動・劣等処遇原則と勤労 美德思想・社会福祉の発展とレク・社会福祉行財政とレク	講義・討議
3	福祉レクの黎明期から現在まで①	福祉レクの兆しソーシャル・グループワークの源流から・医療 保健分野におけるレクの胎動・プレイグラウンドの設置からレ ク運動へ	講義・討議
4	福祉レクの黎明期から現在まで②	我が国におけるレク運動と“福祉レク”の黎明 福祉レク概念の整理	講義・討議
5	福祉レク支援とは何か	福祉レクの一環としてのレク援助 ノーマライゼーションと QOL の思想・福祉レク援助の役割	講義・討議
6	福祉レク援助の意味と役割	福祉レク援助の定義・生活をたのしむこと	講義・討議
7	福祉レク援助の特質①	楽しむための援助・セラピューティック・レク 福祉レク援助の二つの側面	講義・討議
8	福祉レク援助の特質②	生活型レクとセラピューティック・レク	講義・討議
9	これからの福祉レク援助①	個別援助の必要性・ループ活動	講義・討議
10	これからの福祉レク援助②	環境づくり・援助方法の研究開発	講義・討議
11	福祉レク援助の全体像 福祉レク援助とは何をどうすることか	援助における生活の三つの領域・利用者をどう理解するか・援 助をどう理解するか・福祉レク援助の体系	講義・討議
12	福祉レク援助のプロセス	援助の形態・援助の流れ・援助者の姿勢	
13	福祉レクプログラム開発①	イベント企画に必要な A-PIE プロセスについて事例を通して学 び、グループ作業のスタートとする。	講義と 共同学修
14	福祉レクプログラム開発②	グループで養護老人ホームの誕生日会でのプログラムを企画す る。柔軟な発想と創造で楽しい企画作り。	企画書作成共同学修

15	発表	グループで開発した福祉レクプログラムの発表 小集団での共同学習 チームで企画の評価を行う。	発表・議論（話し合い）
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		A（優）の目安：90点、B（良）の目安：70点 ・授業で学習した内容の理解度。 ・自身の見解を論理的な文章で論じている。 ・発表が論理的である。 ・能動的な受講態度であること。（積極的で、ポイントを的確に理解した発言、発表等） ・発表、発言等に創造性、独自性がみられる	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
生活支援技術 I		講義	浅井 恭子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる内容であるとともに、住まいの多様性を理解し、自立支援のための居住環境整備についての基礎的な知識を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる。 ・住まいの多様性、自立支援のための居住環境の整備について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	生活支援の理解①	生活支援とは何か、ライフサイクルと生活の豊かさ	講義
2	同上②	ICF の視点に基づく生活支援	講義
3	同上③	生活支援におけるチームアプローチの重要性	講義
4	自立に向けた居住環境の整備①	住まいの機能と役割、家族と生活空間	講義
5	同上②	人と空間、加齢と生活空間	講義
6	同上③	生活環境と室内環境、室内気候の調整	講義
7	同上④	明るさの調整、音環境の調整	講義
8	同上⑤	住まいの維持・管理	講義
9	同上⑥	日常安全、災害に対する備え	講義
10	同上⑦	高齢者の住まい	講義
11	同上⑧	障害者の住まい	講義
12	同上⑨	住まいと地域	講義
13	同上⑩	居住環境の整備における多職種連携の必要性	講義
14	同上⑪	他職種の役割と介護福祉の連携	講義
15	同上⑫	居住環境の整備における多職種連携の実践	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術 I』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		原則として毎回の授業のワークシートの提出状況を重視する。また、出席率、授業参加態度及び確認テストも含めて評価基準とする。	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者
生活支援技術Ⅲ		講義・演習		平手 裕三・寺田 ひとみ
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択
60	120（4）	1年（通年）		必修
[授業の目的・ねらい]				
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。				
[授業全体の内容の概要]				
○対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。				
○健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる内容とする。				
○終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解する内容とする。				
○介護ロボットを含め、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する内容とする。				
[授業終了時の達成課題（達成目標）]				
・対象者の能力を活用し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識と技術を身につける。				
・対象者の能力に応じて福祉用具を活用するための知識や技術を身につける。				
・終末期ケアにおける支援の内容や方法について理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
回数	テーマ	内 容		授業方法
1	オリエンテーション	今後の授業についての説明等		講義
2	休息・睡眠の介護①	休息・睡眠環境を整える		講義
3	休息・睡眠の介護②	休息・睡眠の介護、休息・睡眠における多職種連携の必要性		講義
4	休息・睡眠の介護③	ベッドメイキング（リネン、シーツのたたみ方）		演習
5	自立に向けた移動の介護①	自立した移動とは、自立に向けた移動・移乗の介護1（ボディメカニクス）		講義
6	自立に向けた移動の介護②	自立に向けた移動・移乗の介護2（ボディメカニクス）		演習
7	自立に向けた移動の介護③	自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきこと		講義
8	休息・睡眠の介護④	ベッドメイキング1（ベッド頭元三角）		演習
9	福祉用具の意義と活用	生活支援における福祉用具の重要性、福祉用具の種類		講義
10	休息・睡眠の介護⑤	ベッドメイキング2（ベッド足元）		演習
11	自立に向けた移動の介護④	自立に向けた移動・移乗の介護3（安楽体位）		講義
12	休息・睡眠の介護⑥	ベッドメイキング3（シーツ清掃）		演習
13	自立に向けた身じたくの介護①	自立した身じたくとは、自立に向けた身じたくの介護をするために介護福祉職がすべきこと		講義
14	休息・睡眠の介護⑦	ベッドメイキング4（シーツ交換）		演習

15	自立に向けた移動の介護⑤	自立に向けた移動・移乗の介護4（歩行の介助）	講義
16	自立に向けた移動の介護⑥	自立に向けた移動・移乗の介護5（歩行の介助）	演習
17	自立に向けた移動の介護⑦	自立に向けた移動・移乗の介護6（車いす点検）	演習
18	自立に向けた移動の介護⑧	自立に向けた移動・移乗の介護7（車いす外出）	演習
19	自立に向けた移動の介護⑨	自立に向けた移動・移乗の介護8（上方移動）	演習
20	自立に向けた移動の介護⑩	自立に向けた移動・移乗の介護9（水平移動）	演習
21	自立に向けた移動の介護⑪	自立に向けた移動・移乗の介護10（対面法、背面法）	演習
22	自立に向けた移動の介護⑫	自立に向けた移動・移乗の介護11（仰臥位から端座位）・確認テスト	演習
23	自立に向けた身じたくの介護②	自立に向けた身じたくの介護1（口腔ケア）	講義
24	自立に向けた移動の介護⑬	自立に向けた移動・移乗の介護12（端座位から立位）	演習
25	自立に向けた食事の介護①	食事の意義と目的	講義
26	自立に向けた移動の介護⑭	自立に向けた移動・移乗の介護13（ベッドから車いす）	演習
27	自立に向けた食事の介護②	自立に向けた食事の介護1（誤嚥予防のための支援）	講義
28	自立に向けた食事の介護③	自立に向けた食事の介護2（配膳、姿勢）	演習
29	アセスメント①	アセスメントとは	講義
30	自立に向けた食事の介護④	自立に向けた食事の介護3（全介助）	演習
31	科目終了試験（前期分）		
32	自立に向けた身じたくの介護③	自立に向けた身じたくの介護2（衣服の着脱（前開き、かぶり一部介助））	演習
33	自立に向けた身じたくの介護④	自立に向けた身じたくの介護3（衣服の着脱（臥床一部介助・全介助））	演習
34	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	自立した入浴・清潔保持とは	講義
35	自立に向けた身じたくの介護⑤	自立に向けた身じたくの介護4（衣服の着脱（浴衣全介助））	演習
36	自立に向けた身じたくの介護⑥	自立に向けた身じたくの介護5（髭剃り、爪切り）	講義
37	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	自立に向けた入浴・清潔保持の介護1（足浴）	演習
38	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	自立に向けた入浴・清潔保持の介護2（部位の清潔）	講義
39	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	自立に向けた入浴・清潔保持の介護3（足浴）	演習

40	休息・睡眠の介護⑧	休息・睡眠とは、休息・睡眠の効果	講義
41	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	自立に向けた入浴・清潔保持の介護4（洗髪）	演習
42	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	自立に向けた入浴・清潔保持の介護5（全身清拭）	演習
43	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	自立に向けた入浴・清潔保持の介護6（入浴（一般浴、機械浴））	演習
44	休息・睡眠の介護⑨	休息・睡眠の介護1（安楽、電法）	講義
45	休息・睡眠の介護⑩	休息・睡眠の介護2（電法）	演習
46	休息・睡眠の介護⑪	休息・睡眠の介護3（安楽な体位）	演習
47	アセスメント②	バイタルチェック、確認テスト	講義
48	自立に向けた移動の介護⑮	自立に向けた移動・移乗の介護14（機能訓練）	講義
49	自立に向けた移動の介護⑯	自立に向けた移動・移乗の介護15（機能訓練）	演習
50	自立に向けた移動の介護⑰	自立に向けた移動・移乗の介護16（スライディングマット、移動式リフト）	演習
51	自立に向けた排泄の介護①	自立した排泄とは	講義
52	自立に向けた排泄の介護②	自立に向けた排泄の介護1（トイレ誘導（ポータブルトイレ））	演習
53	自立に向けた排泄の介護③	自立に向けた排泄の介護2（失禁への対応）	講義
54	自立に向けた排泄の介護④	自立に向けた排泄の介護3（仰臥位便器、尿器）	演習
55	自立に向けた排泄の介護⑤	自立に向けた排泄の介護4（紙おむつ、陰部洗浄）	演習
56	自立に向けた排泄の介護⑥	自立に向けた排泄の介護5（布おむつ（準備～片付け））	演習
57	人生の最終段階における介護①	人生の最終段階の意義と介護の役割	講義
58	人生の最終段階における介護②	人生の最終段階における介護（エンゼルケア）	演習
59	緊急時・災害時の介護①	応急手当、被災地で活動する際の心構え	講義
60	緊急時・災害時の介護②	応急手当、事故予防	演習
61	これまでの授業のまとめ	生活支援技術のまとめ	講義
62	科目終了試験（後期分）		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術Ⅰ』、 最新・介護福祉士養成講座7『生活支援技術Ⅱ』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験、授業態度、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅱ		講義		寺田 ひとみ	
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
30	60 (4)	1年 (後期)		必修	
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。					
[授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・介護過程の実践的展開について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容			授業方法
1	介護過程の展開の理解①	介護過程の意義・目的、実践的展開			講義・演習
2	同上②	具体的な場面をもとに考えてみる			講義・演習
3	同上③	根拠に基づく介護過程			講義・演習
4	同上④ (フェイスシート)	事実のとらえ方1 (情報収集)			講義・演習
5	同上⑤ (フェイスシート)	事実のとらえ方2 (情報収集)			講義・演習
6	同上⑥ (アセスメント)	アセスメントの視点1 (客観的な把握の方法)			講義・演習
7	同上⑦ (アセスメント)	アセスメントの視点2 (情報の解釈・関連づけ・統合化)			講義・演習
8	同上⑧ (課題の抽出)	課題の明確化 (課題とケア方針の抽出・決定)			講義・演習
9	同上⑨ (長期目標・短期目標)	生活課題に沿った目標の挙げ方			講義・演習
10	同上⑩ (計画の立案)	実施状況の把握と理解			講義・演習
11	同上⑪ (計画の立案)	実践の記録の目的			講義・演習
12	介護過程の展開の実際① (事例1)	グループワーク1 (フェイスシート)			講義・演習
13	同上	グループワーク2 (アセスメント)			講義・演習
14	同上	グループワーク3 (アセスメント、統合)			講義・演習
15	同上	グループワーク4 (課題、目標)			講義・演習
16	同上	グループワーク5 (計画)			講義・演習
17	同上	グループ発表、確認テスト			講義・演習
18	介護過程の展開の実際② (事例2)	グループワーク1 (フェイスシート)			講義・演習
19	同上	グループワーク2 (アセスメント)			講義・演習
20	同上	グループワーク3 (アセスメント、統合)			講義・演習
21	同上	グループワーク4 (課題、目標)			講義・演習
22	同上	グループワーク5 (計画)			講義・演習
23	同上	グループ発表			講義・演習

24	介護過程の展開の実際③（事例3）	グループワーク1（フェイスシート）	講義・演習
25	同上	グループワーク2（アセスメント）	講義・演習
26	同上	グループワーク3（アセスメント、統合）	講義・演習
27	同上	グループワーク4（課題、目標）	講義・演習
28	同上	グループワーク5（計画）	講義・演習
29	同上	グループ発表	講義・演習
30	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
31	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』	
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・前回実習の取り組みを振り返り、次回実習における自己の課題に気づくことができる。 ・介護実習の目的・目標、実習方法、注意事項について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	実習Ⅰのまとめ オリエンテーション	実習Ⅰの取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 介護実習Ⅱ・Ⅲまでの予定	講義・演習
2	実習Ⅱ、実習Ⅲの目標と留意点	実習の目標、実習の留意点	講義・演習
3	医療行為とチームワーク	医療行為との関係、他の職種について、チームワーク	講義・演習
4	健康管理	感染と感染症、主な感染症と予防方法、腰痛症、ストレス	講義・演習
5	レクリエーション活動	レクリエーションの目的、アセスメントから計画の立案、実施及び評価	講義・演習
6	実習準備	実習Ⅲのテーマ、自己アピールの作成	講義・演習
7	実習Ⅱ① (デイサービス・グループホーム)	デイサービス・グループホーム実習の目的と実習の流れ、実習の位置づけ	講義・演習
8	同上②	利用者及び家族の理解、デイサービス・グループホーム実習項目、記録	講義・演習
9	同上③	テーマ・自己アピールの作成	講義・演習
10	同上④	お茶の入れ方・出し方、言葉遣い、身だしなみ	講義・演習
11	援助記録の作成	援助記録の目的・書き方	講義・演習
12	実習準備	実習簿の作成、事前訪問・実習における諸連絡	講義・演習
13	実習計画表の作成	実習項目、計画表の作成	講義・演習
14	カンファレンス	カンファレンスの演習、カンファレンス計画表の作成	講義・演習
15	科目終了試験		
16	総括	これまでの授業のまとめ	講義・演習
使用テキスト		(株) みらい 『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』	
参考文献		実習の手引き	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席率及び授業態度にて総合評価	

介護実習計画

実習区分	実習の名称	実習内容	日数	時間	実習の目的	実習の目標	実施学年	担当
介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰ	見学実習 ・老人福祉施設見学	1	8	老人福祉施設の見学実習をすることにより、介護を必要とする人々への関心と理解を深め、介護福祉士の役割について考える。	①介護を必要とする人々が生活する施設の概要を理解することができる。 ②施設行事への参加を通して、利用者との人間のかかわりを深め、利用者の日常生活や思いに対して関心を持つことができる。 ③見学やふれあいを通して、期待される介護福祉士像を考えることができる。	1年前期	寺田 中田
		施設実習 (2週間、5日／週)	10	80	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。	①利用者とのコミュニケーションを通して、相手を理解し観察することができる。 ②コミュニケーション技法を用いて、関係の成立・発展について理解することができる。 ③利用者の生活を理解し、利用者の生活ニーズと介護の必要性を考えることができる。 ④生活支援技術の基礎を習得することができる。 ⑤施設の概要、利用者の状況、職員の役割が理解できる。	1年前期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	11	88				
	介護実習Ⅱ	デイサービス グループホーム実習 体験実習	2 3 1	16 24 8	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。	①利用者の生活の場である多様な介護現場の特徴が理解できる。 ②生活に根ざした利用者の多様なニーズについて考えることができる。 ③多様な施設・事業所の役割、在宅サービスを理解し、地域福祉について考えることができる。	1年後期 ～ 2年後期	寺田 中田
		小計	6	48				
介護実習Ⅱ	介護実習Ⅲ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者の個性を理解し、必要な介護について理解することができる。 ②利用者の状況にあわせた生活支援技術を実践する基礎を習得することができる。 ③介護過程を展開する基礎を習得することができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価) ④利用者の尊厳の保持とプライバシーの重要性、利用者本位について理解することができる。	1年後期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	20	160				
	介護実習Ⅳ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者を理解し、生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解することができる。 ②利用者の個性にあわせた介護過程の展開ができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価、修正) ③ターミナルケアの理解を深めることができる。 ④多職種協働について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を高めることができる。 ⑤利用者の尊厳と自立について学び、介護福祉士としての倫理観、介護観を持つことができる。 ⑥介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方が理解できる。	2年前期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	20	160				
		総計	57	456				

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
認知症の理解Ⅱ		講義		伊藤 晶子	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択	
8	15（1）	1年（後期）		必修	
[授業の目的・ねらい]					
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。					
[授業終了時の達成課題（達成目標）]					
・医学的側面、心理的側面から見た認知症の基礎が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容			授業方法
1	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解①	認知症とは、脳の各部位とはたらき			講義
2	同上②	認知症による障害（記憶障害、見当識障害、失語、失行、失認等）			講義
3	同上③	認知症の原因となる主な病気の症状、特徴1（神経変性性疾患による認知症）			講義
4	同上④	認知症の原因となる主な病気の症状、特徴2（脳血管障害と感染性疾患による認知症）			講義
5	同上⑤	認知症の原因となる主な病気の症状、特徴3（脳外科的疾患による認知症、若年性認知症）			講義
6	同上⑥	認知症の原因となる主な病気の症状、特徴4（内分泌性疾患・精神作用物質・薬物等による認知症）			講義
7	同上⑦	認知症の診断と治療（間違えられやすい症状：うつ病、せん妄）			講義
8	科目終了試験	まとめ、総合評価			
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 『認知症の理解』			
参考文献		資料配布			
単位認定の方法及び基準 （試験・レポートの評価基準）		出席率及び授業態度にて総合的評価			

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
障害の理解Ⅱ		講義	伊藤 晶子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 医学的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。また障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOL を高める支援につながる内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・障害のある人の生活とその障害の特性に応じた支援について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	障害の医学的側面の基礎的理解と障害特性に応じた介護①	視覚・聴覚・言語障害 (緑内障、黄斑変性症、網膜症、難聴、構音障害等)	講義
2	同上②	肢体不自由 (運動機能障害): 脊髄損傷等	講義
3	同上③	重複障害	講義
4	同上④	内部障害 1 (心機能障害)	講義
5	同上⑤	内部障害 2 (腎機能障害)	講義
6	同上⑥	内部障害 3 (呼吸器機能障害)	講義
7	同上⑦	内部障害 4 (膀胱・直腸障害)	講義
8	同上⑧	免疫機能障害	講義
9	同上⑨	精神遅滞・知的障害 (ダウン症、クレチン症)	講義
10	同上⑩	精神障害 (統合失調症、躁うつ病等)	講義
11	同上⑪	高次脳機能障害	講義
12	同上⑫	発達障害 (広汎性発達障害、LD、ADHD)	講義
13	同上⑬	重症心身障害	講義
14	同上⑭	難病 (脊髄小脳変性症、多発性硬化症等)	講義
15	まとめ	まとめ、総合評価	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座 14 『障害の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席率及び授業態度にて総合的に評価	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ		講義	中田 亜由
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理の基礎的な知識を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・こころのしくみについて理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	健康とは何か	健康の定義、健康づくり、健康観	講義
2	こころのしくみの理解①	人間の欲求とは	講義
3	同上②	基本的欲求	講義
4	同上③	社会的欲求	講義
5	同上④	自己実現とは	講義
6	同上⑤	自己概念に影響する要因	講義
7	同上⑥	自立への意欲と自己概念	講義
8	同上⑦	自己実現と尊厳、生きがい	講義
9	同上⑧	「こころ」とは何か	講義
10	同上⑨	脳のしくみ	講義
11	同上⑩	認知のしくみ	講義
12	同上⑪	学習・記憶・思考のしくみ	講義
13	同上⑫	感情・情動のしくみ	講義
14	同上⑬	意欲・動機づけのしくみ	講義
15	同上⑭	適応のしくみ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
医療的ケアの理解		講義	中田 亜由
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
35	50	1年(後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する内容とする。また、喀痰吸引と経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順、方法を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題(達成目標)] ・医療的ケアに関する制度の概要について理解できる。 ・医療的ケアにおける個人の尊厳と自立、倫理観について理解できる。 ・喀痰吸引、経管栄養のケアに関する基礎的な知識について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	医療的ケアの実施の基礎①	医行為に関する法律と倫理、その他の制度	講義
2	同上②	医療的ケアの制度の理解、介護保険法の概要	講義
3	同上③	呼吸のしくみとはたらき、呼吸の観察方法	講義
4	喀痰吸引の基礎的知識①	吸引が必要な状態とは、人工呼吸器、非侵襲的人工呼吸法	講義
5	同上②	子どもの吸引の留意点、家族への対応	講義
6	同上③	感染予防の手技、感染に関する観察事項	講義
7	同上④	喀痰吸引時に生じる危険の種類、ヒヤリハット・アクシデント	講義
8	喀痰吸引の実施手順①	必要物品と清潔操作	講義
9	同上②	喀痰吸引時の留意点	講義
10	同上③	口腔内・鼻腔内吸引と気管カニューレの各留意点	講義
11	同上④	喀痰吸引に伴うケア、報告・記録	講義
12	同上⑤	喀痰吸引に伴うリスクマネジメントに関する理解	講義
13	同上⑥	喀痰吸引のまとめ	講義
14	救急蘇生	救急蘇生の手順、AEDの使用方法	講義
15	清潔保持と感染予防①	感染と予防策に関する理解	講義
16	同上②	介護福祉職の感染予防、ワクチンの理解、消毒と滅菌の違いに関する理解	講義
17	健康状態の把握	バイタルサインの測定、急変時の対応方法	講義
18	経管栄養の基礎的知識①	消化器系のしくみとはたらき 確認テスト	講義
19	同上②	経管栄養のしくみの理解1	講義

20	同上③	経管栄養のしくみの理解2	講義
21	同上④	経管栄養に使用する注入物の種類に関する理解	講義
22	同上⑤	スキントラブル、感染予防、子どもの経管栄養	講義
23	同上⑥	ケアへの説明・同意、トラブル時の対応方法	講義
24	経管栄養の実施手順①	必要物品と清潔操作	講義
25	同上②	準備・後片付け・記録	講義
26	同上③	経管栄養に伴うケア	講義
27	同上④	事例をもとに演習1	演習
28	同上⑤	事例をもとに演習2	演習
29	同上⑥	事例をもとに演習3	演習
30	医療的ケアの実施手順①	DVDをもとに手順を確認する1	講義
31	医療的ケアの実施手順②	DVDをもとに手順を確認する2	演習
32	医療的ケアの実施手順③	DVDをもとに手順を確認する3	演習
33	医療的ケアの実施手順④	DVDをもとに手順を確認する4	演習
34	医療的ケアの実施手順⑤	DVDをもとに手順を確認する5	演習
35	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座15 『医療的ケア』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、出席状況を総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
レクリエーション実技		実 技	山口 榮三
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	1年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 福祉レク支援を学ぶ。 福祉レクの展開状況を学ぶ。 福祉レクの企画手法・援助技術を身につける。 [授業全体の内容の概要] 福祉レクの支援計画の立案と支援実践ができるように、福祉レクリエーション (以下「福祉レク」) の具体的な内容とそれが社会福祉の諸領域でどのように展開されているかを学ぶ。そして、福祉レク援助が何を目的として行われるのか、その全体像を理解し、福祉レク援助者としての支援計画立案手法を学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・福祉レクの考え方・歩みを簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの展開状況を簡潔に発表・説明ができる。 ・福祉レクの企画・支援ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	オリエンテーション	授業概要・現場支援実習説明※レクリエーション支援の必要性	講義
2	コミュニケーション・ワーク 1-①	「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ」	講義・実技
3	コミュニケーション・ワーク 1-②	演習：▶振り返ってみよう※感情の表し方をコントロールする	講義・実技
4	コミュニケーション・ワーク 2-①	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術について他	講義・実技
5	コミュニケーション・ワーク 2-②	気持ちを受け止めていることを伝えるコミュニケーション技術	実技 (演習)
6	コミュニケーション・ワーク 2-③	演習：▶居心地よい場面づくり／▶コミュニケーション技術を用いる／▶気持ちを伝える配慮を試すー	実技 (演習)
7	コミュニケーション・ワーク 2-④	ー良好な集団づくりの方法・アイスブレイキングー	実技 (演習)
8	コミュニケーション・ワーク 2-⑤	アイスブレイキングの効果を高める支援技術	実技 (演習)
9	福祉レク支援の展開と方法①	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動展開法	実技 (支援実習)
10	福祉レク支援の展開と方法②	A-PIE プロセスについて学び、グループ作業のスタートとする。	講義と共同学修
11	レクリエーションプログラムの企画①	チームで共同してレクリエーションプログラムの企画を行う。	(共同学修)
12	レクリエーションプログラムの企画②	チームで共同してレクリエーションプログラムの企画を行う。	(共同学修)
13	レクリエーションプログラムの体験①	他グループ作成のレクリエーションプログラムの体験	講義・実技
14	レクリエーションプログラムの体験②	各チームで企画実践したウォーク・ラリー企画の評価	実技
15	まとめ	これまで学んだことを振り返りレポートにする。	レポート作成
16	科目終了試験		

使用テキスト 参考文献	楽しさをとおして心の元気づくり・レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人日本レクリエーション協会 講師が用意するプリント
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)	A (優) の目安：90点、B (良) の目安：70点 ・授業で学習した内容の理解度。 ・自身の見解を論理的な文章で論じている。 ・発表が論理的である。 ・能動的な受講態度であること。(積極的で、ポイントを的確に理解した発言、発表等) ・発表、発言等に創造性、独自性がみられる。

介護福祉学科

2年生

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
情報処理論		実技	高橋 直子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習のための他者への情報伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。 コミュニケーションの基礎として、道具を用いた言語的コミュニケーションの活用を学習する。 [授業全体の内容の概要] ワープロの基本操作とビジネス文書の作成方法を習得する。 簡単な表の作成方法を習得する。 実技の演習を主体として授業を進める。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・期末試験として、1枚の文書を作成し、保存する。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	コミュニケーションとは	コンピュータの基本操作 ワードの基本操作および文字入力	実技
2	ワード	定型文書の作成 (社外文書・社内文書)	実技
3	ワード	いろいろな編集機能の利用	実技
4	ワード	復習	実技
5	ワード	表作成の練習	実技
6	ワード	表のある文書の作成	実技
7	ワード	復習	実技
8	エクセル	エクセルの基本操作と計算	実技
9	エクセル	グラフ	実技
10	エクセル	割合の計算と条件など関数	実技
11	エクセル	復習	実技
12	ワード	ビジュアル的な文書の作成	実技
13	ワード	いろいろな文書	実技
14	ワード	復習	実技
15	ワード	総合演習	実技
16	科目終了試験		実技
使用テキスト		講義プリントと演習問題を配布	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		試験：60点 授業内評価：40点 学習態度と演習課題の達成状況	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
公的扶助論		講義	岩切 英隆
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] I 公的扶助の意義と役割、沿革、体系について理解する。 II 生活保護制度について理解する [授業全体の内容の概要] I 公的扶助の意義と役割、沿革、体系について学ぶ。 II 生活保護の原理・原則、種類としくみについて学ぶ。 III 関連する諸制度について学ぶ。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] I 公的扶助の意義・役割について理解できる。 II 生活保護制度や関連する諸制度について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	公的扶助とは①	社会保険制度としての公的扶助の概念	講義・討議
2	公的扶助とは②	公的扶助の沿革	講義・討議
3	公的扶助とは③	我が国における公的扶助の範囲と特徴	講義・討議
4	公的扶助とは④	公的扶助の意義と役割、ナショナル・ミニマム機能	講義・討議
5	貧困の概念	貧困の定義と貧困状態にある人の生活実態、社会環境	講義・討議
6	生活保護制度①	生活保護の目的と原理、原則	講義・討議
7	生活保護制度②	保護の種類と内容及び方法	講義・討議
8	生活保護制度③	保護施設、被保護者の権利及び義務	講義・討議
9	生活保護制度④	財源・予算、最低生活保障水準と生活保護基準	講義・討議
10	関連する諸制度①	生活困窮者自立支援法の理念と概要、各事業の概要	講義・討議
11	関連する諸制度②	生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制	講義・討議
12	関連する諸制度③	生活福祉資金貸付制度、低所得者・ホームレス対策	講義・討議
13	関係機関と専門職の役割①	国、都道府県、市町村の役割	講義・討議
14	関係機関と専門職の役割②	福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割	講義・討議
15	まとめ	これまでの授業の振り返り、まとめ	講義・討議
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規『最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業態度及び提出物：70 点 試験：30 点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
法学		講義	岩切 英隆
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護福祉専門職者が法律を理解する意義を理解する。介護福祉の職についた時にも役立つような、法律の基本知識を学ぶ。また、その知識をどのように生かすかを学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 民法の契約、不法行為、婚姻と離婚、親子と扶養、法定相続、遺言、行政法、憲法の基本的人権の尊重、統治機構などについて理解させる。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・社会生活における法や法の作用、役割について理解できる。 ・憲法、民法及び行政法等の基礎が理解できる。 ・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、介護福祉士に必要な法律の基礎が理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	法学全般	第1章 法学への招待	講義
2	民法 (契約法)	第2章 契約について	講義
3	民法 (消費者法)	第3章 日常生活における消費について	講義
4	民法 (不法行為)	第4章 不法行為の成立について	講義
5	民法 (家族法) ①	第5章 婚姻の成立要件と効果・離婚の手続きと効果	講義
6	民法 (家族法) ②	第5章 親子関係について	講義
7	民法 (家族法) ③	第5章 相続について	講義
8	刑法 (犯罪と刑罰)	第6章 罪刑法定主義	講義
9	刑法 (性犯罪関係)	第7章 生活における犯罪	講義
10	憲法 (統治)	第8章 三権の分立と国の統治機構	講義
11	憲法 (人権)	第9章 基本的人権の性格	講義
12	会社法	第10章 企業の経済活動について	講義
13	労働法	第11章 労働者の権利について	講義
14	国際法とリテラシー	第12.14章 SDGs、法律リテラシー	講義
15	人権と国際法	第13章 人権と国際法	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		弘文堂 『プレステップ 法学』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		出席状況：30点 授業内評価：40点 試験：30点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ		講義	中田 亜由
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・介護におけるリスクマネジメントの必要性について理解できる。 ・介護従事者の安全確保のための基礎知識について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント①	介護福祉士の責務と安全の確保	講義・演習
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント②	介護の場におけるセーフティマネジメント	講義・演習
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント③	安全を重要視する組織風土の醸成	講義・演習
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント④	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント	講義・演習
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤	福祉サービスに求められる安全・安心	講義・演習
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥	事故防止のための対策	講義・演習
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑦	介護福祉士に必要な感染に関する知識	講義・演習
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑧	安全な薬物療法を支える視点・連携	講義・演習
9	介護従事者の安全①	健康管理の意義と目的、法制度	講義・演習
10	介護従事者の安全②	介護に従事する人の健康問題	講義・演習
11	介護従事者の安全③	介護従事者にとってのこころの健康問題	講義・演習
12	介護従事者の安全④	ストレスとこころの健康	講義・演習
13	介護従事者の安全⑤	介護従事者の身体の状態の現状	講義・演習
14	介護従事者の安全⑥	労働環境の整備、労働災害、労働環境の整備	講義・演習
15	まとめと復習	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座4 『介護の基本Ⅱ』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目終了試験、授業態度、提出物、出欠状況などから総合的に評価する	

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅰ		講義	稲垣 晴久
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (2)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を身につけることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	障害の特性に応じたコミュニケーションの基本①	コミュニケーション障害とは	講義・演習
2	同上②	コミュニケーション障害の原因	講義・演習
3	同上③	コミュニケーション支援の基本	講義・演習
4	同上④	視覚・聴覚障害がある人への支援	講義・演習
5	同上⑤	構音障害・失語症のある人への支援	講義・演習
6	同上⑥	認知症の人への支援	講義・演習
7	同上⑦	うつ病・抑うつ状態の人への支援	講義・演習
8	同上⑧	統合失調症の人への支援	講義・演習
9	同上⑨	知的障害のある人への支援	講義・演習
10	同上⑩	発達障害のある人への支援	講義・演習
11	同上⑪	高次脳機能障害のある人への支援	講義・演習
12	同上⑫	重症心身障害のある人への支援	講義・演習
13	事例検討①	事例検討1	講義・演習
14	事例検討②	事例検討2	講義・演習
15	試験対策	これまでの授業のまとめ	講義
16	科目終了試験		
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座5 『コミュニケーション技術』	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業の取り組み：20点、試験：80点	

授 業 概 要

科目名		授業の種類		授業担当者	
介護過程Ⅳ		講義		中田 亜由	
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期		必修・選択	
15	30（2）	2年（後期）		必修	
[授業の目的・ねらい]					
本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。必要に応じて自立した生活のための福祉用具を作成する。					
[授業終了時の達成課題（達成目標）]					
個別の事例を通じて、介護過程の展開について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
回数	テーマ	内 容			授業方法
1	介護過程の展開の理解①	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開			講義
2	介護過程の展開の理解②	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開（事例Ⅰ）			演習
3	介護過程の展開の理解③	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
4	介護過程の展開の理解④	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
5	介護過程の展開の理解⑤	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
6	介護過程の展開の理解⑥	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
7	介護過程の展開の理解⑦	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
8	介護過程の展開の理解⑧	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開			演習
9	介護過程の展開の理解⑨	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 生活支援に必要な福祉用具を考える			演習
10	介護過程の展開の理解⑩	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例に適切な福祉用具が指導を受ける			演習
11	介護過程の展開の理解⑪	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 福祉用具に必要な物品のリスト作成			演習
12	介護過程の展開の理解⑫	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 福祉用具の作成			演習
13	介護過程の展開の理解⑬	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 福祉用具の作成			演習
14	介護過程の展開の理解⑭	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 福祉用具の実際の利用			演習
15	介護過程の展開の理解⑮ まとめと復習	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 これまでの授業のまとめ			講義・演習
16	科目終了試験	介護計画と福祉用具の発表			
使用テキスト 参考文献		中央法規 最新・介護福祉士養成講座9 『介護過程』資料配布			
単位認定の方法及び基準		発表の態度、授業の態度、提出物、出席状況から総合的に評価する			

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅳ		講義	寺田 ひとみ
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30 (1)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と、その方法を理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・事例をまとめ、発表することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	オリエンテーション 実習Ⅳのまとめ①	今後の授業の進め方について、実習Ⅳの取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける	講義・演習
2	実習Ⅳのまとめ②	実習Ⅳの取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける (発表)	演習
3	介護実践の科学的探究① (グループワーク)	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 1 (はじめに)	演習
4	同上②	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 2 (ケース紹介)	演習
5	同上③	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 3 (ケース紹介)	演習
6	同上④	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 4 (介護の実際)	演習
7	同上⑤	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 5 (介護の実際)	演習
8	同上⑥	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 6 (結果・考察)	演習
9	同上⑦	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 7 (結果・考察)	演習
10	同上⑧	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 8 (結果・考察)	演習
11	同上⑨	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 9 (おわりに・参考文献)	演習
12	同上⑩	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 10 (おわりに・参考文献)	演習
13	同上⑪	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 11 (発表用紙の清書)	演習
14	同上⑫	実習Ⅳでの介護過程の取り組みを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつける 12 (発表用紙の清書)	演習
15	発表会	グループごとに発表	演習
使用テキスト 参考文献		(株) みらい 『ワークで学ぶ 介護実習・介護総合演習』 資料配布	
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		授業態度、発表内容、出欠状況などから総合的に評価する	

介護実習計画

実習区分	実習の名称	実習内容	日数	時間	実習の目的	実習の目標	実施学年	担当
介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰ	見学実習 ・老人福祉施設見学	1	8	老人福祉施設の見学実習をすることにより、介護を必要とする人々への関心と理解を深め、介護福祉士の役割について考える。	①介護を必要とする人々が生活する施設の概要を理解することができる。 ②施設行事への参加を通して、利用者との人間のかかわりを深め、利用者の日常生活や思いに対して関心を持つことができる。 ③見学やふれあいを通して、期待される介護福祉士像を考えることができる。	1年前期	寺田 中田
		施設実習 (2週間、5日／週)	10	80	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。	①利用者とのコミュニケーションを通して、相手を理解し観察することができる。 ②コミュニケーション技法を用いて、関係の成立・発展について理解することができる。 ③利用者の生活を理解し、利用者の生活ニーズと介護の必要性を考えることができる。 ④生活支援技術の基礎を習得することができる。 ⑤施設の概要、利用者の状況、職員の役割が理解できる。	1年前期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	11	88				
	介護実習Ⅱ	デイサービス グループホーム実習 体験実習	2 3 1	16 24 8	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。	①利用者の生活の場である多様な介護現場の特徴が理解できる。 ②生活に根ざした利用者の多様なニーズについて考えることができる。 ③多様な施設・事業所の役割、在宅サービスを理解し、地域福祉について考えることができる。	1年後期 ～ 2年後期	寺田 中田
		小計	6	48				
介護実習Ⅱ	介護実習Ⅲ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者の個別性を理解し、必要な介護について理解することができる。 ②利用者の状況にあわせた生活支援技術を実践する基礎を習得することができる。 ③介護過程を展開する基礎を習得することができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価) ④利用者の尊厳の保持とプライバシーの重要性、利用者本位について理解することができる。	1年後期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	20	160				
	介護実習Ⅳ	施設実習 (4週間、5日／週)	20	160	介護過程の実践的展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。 多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。	①利用者を理解し、生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解することができる。 ②利用者の個性にあわせた介護過程の展開ができる。(情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価、修正) ③ターミナルケアの理解を深めることができる。 ④多職種協働について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を高めることができる。 ⑤利用者の尊厳と自立について学び、介護福祉士としての倫理観、介護観を持つことができる。 ⑥介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方が理解できる。	2年前期	寺田 中田 平手 伊藤 渡邊
		小計	20	160				
		総計	57	456				

授 業 概 要

科目名		授業の種類	授業担当者
認知症の理解 I		講義	伊藤 晶子
授業の回数	時間数 (単位数)	配当学年・時期	必修・選択
8	15 (1)	2年 (後期)	必修
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症ケアの歴史や理念をふくむ、認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。 [授業終了時の達成課題 (達成目標)] ・ 認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解できる。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回数	テーマ	内 容	授業方法
1	認知症を取り巻く状況①	認知症の人の現在とこれから	講義
2	同上②	ケアなきケアの時代からの脱却	講義
3	同上③	これからの認知症を取り巻く状況	講義
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	認知症ケアの理念	講義
5	同上②	認知症ケアの現状	講義
6	同上③	認知症ケアの視点・認知症ケアにおけるかかわり	講義
7	同上④	認知症のある人の思いを理解する	講義・演習
8	科目終了試験		
使用テキスト		中央法規 最新・介護福祉士養成講座13 『認知症の理解』	
参考文献			
単位認定の方法及び基準 (試験・レポートの評価基準)		科目修了試験、授業態度、出欠状況などから総合的に評価する	